

機械器具 31 ダイオードレーザー JMDNコード 36546000
高度管理医療機器 特定保守管理医療機器 設置管理医療機器
「オサダライトサージセルビー」の付属品
レーザープローブ(LPTCC-300-SW)

【警告】

- 1) レーザ光および金属表面からの反射光を直視しないこと。
[網膜の損傷を起こす恐れがある]
 - 2) 管理区域入室者は、必ず付属の保護めがねを着用すること。
[レーザー光が目に入ると網膜の損傷を起こす恐れがある]
 - 3) 皮膚への誤照射に注意すること。[火傷の恐れがある]
- * 4) 空気より酸素濃度の高い雰囲気中で使用する際は、以下の点に注意すること。
- ・ 酸素濃度が高い部位（気道、気管支、咽頭）ではレーザー照射を行わないこと。
 - ・ 酸素濃度が高い部位でレーザー照射を行う必要がある場合は、金属又は不燃性材料の器具を使用すること。
 - ・ 気道内等の酸素濃度が高くなる可能性がある部位でレーザー照射を行う必要がある場合は、事前にレーザー使用医師と麻酔医師との間で手術方法等に関して打ち合わせを行い、燃焼事故に対処するシミュレーションとトレーニングを行うこと。[火傷の恐れがある]
- 5) 燃焼しやすいもの（気管内チューブ、麻酔用チューブ、ドレープ、カバー、着衣など）への照射は避けること。
[火災、火傷の恐れがある]
- * 6) 使用中はレーザープローブをドレープの上に置かないこと。
レーザー本体に付属のハンドピースホルダーに置くこと。
[火傷の恐れがある]

*● チップ着脱工具、プローブ収納ケース、ハンドピースホルダー



2. 仕様

照射されるレーザー光の出力は、使用するチップによって異なります。下記の表を参考に、レーザー装置本体の照射パワーを設定して下さい。

レーザー装置本体の設定値	チップ先端からのレーザー出力 (W)			
	SATS07 SATS09	QTCS06 QTFS06 QTCS04	SATF	QTCS03
0.5W	0.39	0.47	0.46	0.35
1.0W	0.78	0.94	0.92	0.70
1.5W	1.17	1.41	1.38	1.05
2.0W	1.56	1.88	1.84	1.40
2.5W	1.95	2.35	2.30	1.75
3.0W	2.35	2.82	2.76	2.10
3.5W	2.74	3.29	3.22	2.45
4.0W	3.13	3.76	3.68	2.80
4.5W	3.52	4.23	4.14	3.15
5.0W	3.90	4.70	4.60	3.50

3. 使用環境条件

下記条件にて使用すること。(但し、結露しないこと)

周囲温度	10-35 °C
相対湿度	30-75 %
気圧	700-1060 hPa

【使用目的又は効果】

歯科（口腔外科）の生体軟組織の切開、止血、凝固及び蒸散に用いる。

【使用方法等】

1. 使用方法

機器の詳細な使用方法は、使用前に必ず取扱説明書を参照すること。

1) 使用前の準備

(1) レーザ装置本体への接続

- ① 光コネクタキャップを取り外す。
- ② レーザ装置本体の光レセプタクルにレーザープローブの光プラグを差し込む。

(2) ハンドピースカバーの取付

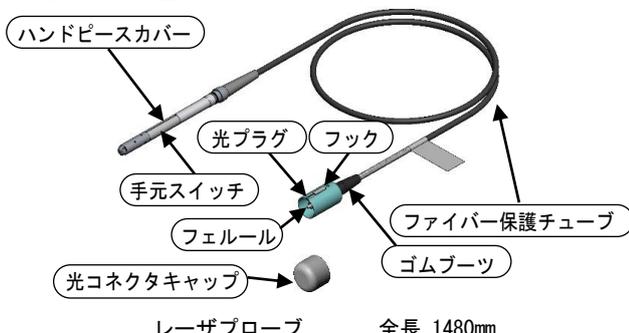
- ① レーザプローブをプローブ収納ケースから取り出す。
- ② レーザプローブの印とハンドピースカバーの印が合うようにハンドピースカバーをカチッと音がするまで差し込む。



【形状・構造及び原理等】

1. 形状

● レーザプローブ LPTCC-300-SW



● 石英ファイバーチップ・サファイアチップ



- 石英ファイバーチップ QTFS06-5
- 石英ファイバーチップ QTCS03-17
- 石英ファイバーチップ QTCS03-22
- 石英ファイバーチップ QTCS04-7
- 石英ファイバーチップ QTCS04-17
- 石英ファイバーチップ QTCS04-22
- 石英ファイバーチップ QTCS03-7
- 石英ファイバーチップ QTCS06-7

- サファイアチップ SATS07
- サファイアチップ SATS09
- サファイアチップ SATF

※1 人体に接触する部分 材質：石英ガラス

※2 人体に接触する部分 材質：サファイア

取扱説明書を必ずご参照下さい。

(3) チップの取付(滅菌したチップの場合)

- ①チップ保護キャップを取り外し、チップ着脱工具の後ろ側に取付ける。
- ②レーザープローブ先端にチップを締め込む。



2) 使用前の点検

- (1) ハンドピースカバーの着脱が正しく行えること。
- (2) チップのフェール端面にキズ、汚れのないこと。
- (3) レーザプローブがレーザー装置本体に正しく接続されていること。
- (4) チップがレーザープローブに正しく接続されていること。
- (5) チップを装着し照射準備状態でチップの先端からガイド光が出ること。

3) 操作

- (1) 照射モード、出力の設定
※オサダライトサージセルピーの取扱説明書を参照
- (2) 照射準備スイッチを押す
- (3) 手元スイッチをオンする。

4) 使用後の処理

- (1) レーザ装置本体からレーザープローブを取外すこと。
- (2) 使用後の点検
①チップ先端の汚れ・かけのないこと。
- (3) 清掃・保守
- (4) 保管

〈使用方法に関連する使用上の注意〉

レーザー装置本体からレーザープローブを取り外す際は、光プラグを持って抜くこと。ゴムブーツやファイバー保護チューブを持って抜かないこと。ゴムブーツの外れ、光ファイバーの破損の原因になる。

【使用上の注意事項】

1. 重要な基本的注意

- 1) 薬審第524号「レーザー手術装置の使用上の注意事項」に規定された管理区域内に設置し、使用すること。
- 2) 可燃性の麻酔ガス、酸素ガス、その他の引火性、可燃性、揮発性の物質の存在する場所やその周囲では使用しないこと。
- 3) 使用の際には、近くに消火設備があることを確認すること。
- 4) レーザプローブを、レーザー照射部位以外の方向に向けないこと。
- 5) 手術器具の表面は反射防止対策を施し、フラットな鏡面を持つ器具の使用は避けること。
- 6) レーザ照射部位以外は燃えにくい布等で保護すること。
- 7) QTFS06-5 チップは非接触照射で使用すること。炭化物等の付着物が付いた場合は、清掃してから使用すること。付着物が付いたまま使用すると破折・溶解することがある。
- 8) 石英ファイバーチップ、サファイアチップに変形・消耗が見られた場合は、使用を中止すること。
- 9) 感染組織等をレーザー照射した時、細菌等が飛散する可能性を少なくするため、吸引器等を使用し、吸引管はできるだけ照射部位の近くで使用し、排気すること。
- 10) 患者に対する安全対策として、以下の点を考慮し使用すること。
 - ①重要組織の保護(生理食塩液に浸したガーゼ等で厚く覆う)
 - ②出血への注意と対策(太い血管への照射を避け、電気メスや結紮等の方法との併用による止血対策にも考慮すること)
 - ③腫瘍組織の中に埋もれている重要な神経や動脈等への誤照射
 - ④治療に必要な最適条件(出力、時間)で使用し、過度の使用をさけること。

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管の条件

下記条件にて保管すること。

周囲温度	-10-50 °C
相対湿度	10-90 %
気圧	700-1060 hPa

直射日光に長時間さらさないこと。

2. 保管上の留意事項

- 1) レーザ装置本体からレーザープローブを取外すこと。
- 2) レーザプローブは、付属のプローブ収納ケースに入れること。
- 3) サファイアチップ、石英ファイバーチップは、チップケースもしくは、チップ着脱工具に取り付けチップ保護キャップを付け保管すること。

3. 耐用期間

消耗品

【保守・点検に係る事項】

機器の詳細な保守・清掃・消毒・滅菌方法は、使用前に必ず取扱説明書を参照すること。

1. 清掃・消毒・滅菌

○：適用可 ×：適用不可

	清掃		消毒		滅菌	
	中性洗剤水拭き	70%アルコール清拭	薬液浸漬	EOG滅菌	高圧蒸気滅菌	135°C以下の乾燥工程
レーザープローブ	○	○	×	○	×	×
ハンドピースカバー	○	○	×	○	○	○
サファイアチップ	○	○	○	○	○	○
石英ファイバーチップ	○	○	○	○	○	○
プローブ収納ケース	○	○	×	○	×	×

※詳細については、取扱説明書 13 清掃・消毒・滅菌 を参照すること。

2. 保守・点検

使用者による保守点検事項

点検頻度	点検内容(概略)
使用前	ハンドピースカバーの着脱が正しく行えること。
	チップのフェール端面にキズ、汚れのないこと。
	チップがレーザープローブに正しく接続されていること。
	レーザープローブがレーザー装置本体に正しく接続されていること。
使用前	チップを装着し、照射準備状態でチップの先端からガイド光が出ること。
使用后	チップ先端に汚れ・かけのないこと。

※詳細については、取扱説明書 18 資料(点検チェックリスト)を参照すること。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者/製造業者/設計業者：長田電機工業株式会社
 TEL：03-3492-7651
 ホームページ：http://www.osada-group.jp/

取扱説明書を必ずご参照下さい。